

人権作文コンテスト

香取人権擁護委員協議会 最優秀賞

神崎中2年 木内辰樹

法務省、全国人権擁護委員連合会主催の全国中学生人権作文コンテスト千葉大会における香取人権擁護委員協議会の最優秀賞を神崎中学校2年の木内辰樹くんが受賞しましたので紹介します。

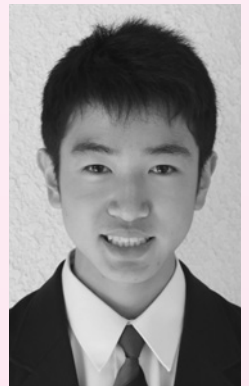
祖父のケガから学んだこと

神崎町立神崎中学校二年

木内 辰樹

僕は普段何となく生活している。食事や朝晩母が作ってくれるし、学校生活も楽しく勉強や部活動も両立できるように頑張っているつもりだ。自分のことだけで精いっぱい支えてくれている家族、特に祖父への思いと一緒に生活していることが当たり前すぎて深く考えることがなかった。ましてや高齢者や障害を持つ方や病気の人たちのことなど考えたこともなかった。

僕は両親と祖父母と姉の3世代6人で同居している。祖父母はともに八十五才になるがとても元気で食事やお風呂もいつも一緒だ。僕が生まれてから祖父がいつも一緒にいるの



木内辰樹くん

が当たり前だったが、二ヶ月ほど前に誤って草刈り機で足を切ってしまった。四時間にも及ぶ神経をつなぐ手術を受け、入院生活を送ることになった。生まれて初めての祖父がいない生活が始まった。

祖父は最初の頃はまったく動けなかった。家族のサポートが必要とされ両親は仕事の合間や仕事が終わってから毎日病院に通っていた。僕といえばたまにお見舞いに顔を出すこと位しかできなかったが、祖父は「お前が勉強や部活を頑張ってくれるのが何よりのお見舞いだよ。」と逆に励まされる始末だった。

そんな中、この夏休みに職場体験学習としてそれぞれが色々な仕事を体験できる機会があり、自分は医師の職場体験を受けることを希望した。先生からは隣の市の県立病院をすすめられたが、祖父の入院している地域のクリニックでの研修を希望してかえていただき、三日間の研修を受けた。今までに経験したことのない数々の体験と、考えたこともなかったことを実際に感じる事ができた。とてもわくわくするような体験だった。

それは内科や整形外科の診察の現場に立ちあったり訪問診療に同行したりリハビリのお手伝いなどをさせ

てもらったことだ。病院内の様々な所を裏側から見学することができた。ほんの少しかもしれないが医療活動の一端を見ることができたと思う。そして、この研修で気が付き実感したことは地元の病院に来る患者のほとんどが高齢者だったということだ。高齢ときちんと向き合うことが医療のとても大切な要素のひとつなのだと思う。

祖父は一週間前によく立つことが出来るようになり器具をつけて歩行のリハビリを始めていたので良いタイミングだった。昼休みには祖父の部屋に行っている話を聞いたり少しだけ介助もしてあげて喜んでくれた。祖父から「自分の思うように体が動かないのは腹立たしくみじめなものだ。」とか「看護師さんたちはとても親切でよくやってくれているけど、パンツをはき替えてたりするときははずかしいなあ。だから、それはお婆ちゃんにやってもらおうようにしているんだよ。」という話やほかにもいろいろな話を聞いて、祖父の願いは何でも叶えてあげたいなと思ったし、こういうことの積み重ねが祖父の人格や誇りというものを守るということなのだと感じた。

研修中、偶然に祖父がリハビリをしている姿を初めて見た。痛みにも耐え歩行器での歩行訓練やボールを使っているのトレーニングを目の当たりにした。早く家に帰って家族と一緒に普通の生活がしたい、祖父の懸命な姿から僕はそう感じた。お盆には祖父は一時的に帰宅するので、両親は

介護用のベットを借りてきたり、手すりを取り付けたりと準備をしている。自分も以前のように無関心ではなく家族の一人としてお手伝いしなければならぬなと思っている。

「座って下さい。」と言われた。「立ったままでも大丈夫です。」と答えると「立ったままだと威圧感を与えるので座って対応してあげてね。」とのことだった。自分の当たり前がここでは違うのだ。いつも自分の観点から物事を判断している自分だったが相手の観点から考えてみることの重要性を再認識することができた。

今までは何とも思わなかった、病院の入口のスロープや駅の販売機の点字とか社会のなかで高齢者や障害者に優しい設備を意識したり見つけることができるようになった。自分の住んでいる町も、高齢化率二八、四％（平成二十五年四月一日、県内二十位）とおよそ三人に一人が高齢者なのだ。都会に比べたら高齢者や障害者に優しい設備も、まだまだ十分とは言えないと思う。次の世代を担っていく自分たちも高齢者や障害者が人間らしく、誇りを持って生きていける社会を実現できるようにもつとお互いに理解を深め、しっかりと向き合っていかなければいけないと強く思った。また、高齢者の持つすばらしい知識や体験など学ぶべきことが多いのではないかと気が付いた。

まずは、帰ってくる祖父の面倒をしつかり見てサポートすることから始めてみようと思う。